

# 奪われた命に学ぶ

大和郡山 中学校でメッセージ展



犠牲者のパネルを見つめる生徒たち  
—大和郡山市の市立片桐中学校

犯罪や事故などで理不尽に命を奪われた犠牲者の等身大パネルと遺品の靴を展示する「生命のメッセージ展」が、大和郡山市内の中学校で開かれている。7月13日まで、市内の全5中学校を巡回して開かれており、一般も見学できる。

同展は、NPO法人「いのちのミュージアム」（東京都）が中心となり、平成13年から全国で開催。大和郡山市内での開催には、12年に交通事故で長男の健仁さん（当時18）を失った児島早苗さん（67）—奈良市—が代表を務めるNPO法人「KENTO」も協力した。

市立片桐中学校で6、7日に行われた展示では、飲

酒運転による事故に巻き込まれた子供など、事故や犯罪犠牲者らの等身大パネル30点を展示。胸元には本人の写真と家族の言葉などがつづられ、足下には「生きた証し」として生前に履いていた靴が置かれた。会場を訪れた児島さんは「同じような事件、事故を繰り返してほしくない」、同校2年の大川輝光さん（13）は「見ていて胸が苦しくなった。いつ、どんなことが誰の身に起こるかわからない。一日一日を大切に家族や友人と過ごしていきたい」と話していた。

21～27日には郡山南中、

7月4～11日に郡山中、同

12～13日は郡山東中で開催